

令和3年度 学校評価

伊予市立伊予小学校

【評価の基準】

- A：目標を達成 (8割以上が肯定)
 - B：おおむね目標を達成 (6割以上が肯定)
 - C：あまり達成できていない (6割未満が肯定)
- ※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【評価母体数】

教職員	21
児童	381
保護者	371
地域	30

【評価の基準・肯定割合】

- ◎ 8割以上肯定
- 6割以上肯定
- △ 6割未満が肯定

【アンケートの内容】

- ア：たいへんよい
- イ：よい
- ウ：あまりよくない
- エ：よくない
- オ：わからない

【目標値】 80%が肯定 以下同様

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察 ● ・ 改善の方策 ◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果 (%)				
							ア	イ	ウ	エ	オ
教育 課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣(1~3年生は30分以上 4年生以上は、学年×10分以上)が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に低い肯定率となっており、家庭学習の習慣がまだ十分定着していない児童も多いことが分かる。自主学習の内容も個人差が大きい。 ◆ 月1回の家庭学習強調週間を継続し、児童への指導と保護者への啓発を行うことで、学習習慣の定着を図っていく。 	教職員	○: 60	13	47	40	0	
		児童	○: 77	40	37	17	6				
		保護者	○: 61	19	42	29	10				
	地域										
	発達段階に応じた表現力(話す・書く)が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度より差は縮まっているが、児童や保護者の肯定率に比べて、教職員の肯定率が低く、まだ十分とは言えない。 ◆ 授業の中で話す・書く活動を意識して取り入れ定着を図っていく。また、教育活動全体を通して、しっかりと聞く意識を高めていく。 	教職員	○: 62	6	56	38	0		
	児童	◎: 81	48	33	14	5					
	保護者	○: 72	19	53	22	5	1				
	地域										
	学年に応じた基礎的な学習内容がほぼ身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 学期末の漢字・計算テストでは、8割以上の平均となり、力が付きつつあるが、読解力については、まだ十分とは言えない。 ◆ 週2回の朝の「学びの広場」を中心に、漢字の読み書きや計算練習を繰り返す行うとともに、読解力の向上を図っていく。 	教職員	○: 69	13	56	31	0		
保護者	○: 72	15	57	22	4	2					
漢字テスト	◎: 83.9										
計算テスト	◎: 85.6										
心の教育の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切にすることを心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の時間を中心に、全ての教育活動の中で生命の大切さを繰り返し学んでいる。今後は、一人一鉢栽培活動等を通して、他の生き物も大切にする意識をさらに高めていく。 	教職員	◎: 87	6	81	13	0		
	児童	◎: 94	70	24	4	2					
	保護者	◎: 90	30	60	6	1	3				
地域											
一人一人の違いを認め合い、人権を大切に作る集団づくりがなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権問題についての学習を発達段階に応じて系統的に行うことで、人権を大切に作る心が育ってきている。その学びを普段の生活と結び付けながら一人一人の自尊感情を高め、さらに人権意識の高揚を図っていく。また、児童の学びを保護者に伝え、啓発に努めていく。 	教職員	◎: 94	29	65	6	0			
児童	◎: 92	61	31	5	3						
保護者	◎: 84	23	61	8	1	7					
地域											
健康教育の推進	楽しく学校生活を送れている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 肯定率がとても高く、コロナ禍で活動が制限される中でも、ほとんどの子どもたちが、楽しく学校生活を送れている。一方で、心身の不調を訴えて保健室を利用する子どもたちもいる。 ◆ 全ての子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう、子どもたちの思いに寄り添った対応を継続していく。 	教職員	◎: 100	28	72	0	0		
	児童	◎: 90	64	26	6	4					
	保護者	◎: 91	42	49	7	1	1				
地域											
「早ね、(低学年は9時、中学年は9時半、高学年は10時)早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員の評価が分かれてきている。ライフスタイルの多様化が進み、基本的な生活習慣が身に付いていない児童がおり、本人も自覚していることが分かる。 ◆ 学年日より、学校日より、保健日より等で啓発するとともに、個人懇談等の機会を活用して個別に対応していく。 	教職員	△: 44	11	33	56	0			
児童	○: 70	38	32	19	11						
保護者	○: 74	33	41	18	8	0					
地域											
外遊びや個に応じた体力づくり(マラソンやなわとび、アサカツなど)で健康の保持・増進に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝の時間や業間を活用して、コロナ禍でも工夫して体力づくりに取り組んでいるため、教職員は高い肯定率となっている。家庭では、コロナ禍で運動等に制限があるため、児童・保護者の肯定率が低くなっていると考えられる。 ◆ 家での運動を啓発したり、頑張りカードを工夫したりすることで改善を図る。 	教職員	◎: 97	17	81	3	0			
児童	○: 78	56	22	15	7						
保護者	○: 62	23	39	31	6	1					
地域											
学校関係者 評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で学校生活を楽しく送っていないのではないかと心配していたが、アンケートでは、それは少なくよかった。ただ、一割はそうではない児童もいるので寄り添い続けて欲しい。 ○ 児童が学校で人権について学習したことを、家庭でも話し合っていたきたい。 ○ 各項目で、児童と保護者の感じ方に差があるのが気になる。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての児童が、「学校は楽しい」と思えるよう、魅力ある学校作りに取り組んでいきたい。 ○ 児童を通じて家庭への啓発をしていくとともに、学習会の形態を工夫しながら、保護者を巻き込んだ人権学習の機会確保に取り組んでいきたい。 ○ 概ね児童の方が楽観的に捉えがちだが、お互いの評価が近づき、さらに高くなるよう、積極的な情報発信に努めていきたい。 						

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%						
							ア	イ	ウ	エ	オ		
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	● 来たるべき大地震に備え、様々な想定での避難訓練・防災訓練を実施している。水害に備えての垂直避難や休憩時間での避難などを通して、状況に応じて自分の安全を確保する意識が高まってきている。 ◆ 今後も様々な想定での訓練を随時行うとともに、事前事後の指導を充実させ、児童の安全対応能力を高めていく。	教職員	◎: 89	39	50	11	0			
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	● 地域の方からの情報提供やPTA 校外指導部等の協力で、登下校の安全指導、まもる君の家との連携に成果を感じている。 ◆ 地域での見守りに協力いただくとともに、安全な登下校や校外生活について、発達段階に応じた指導を繰り返し行い、児童の安全意識を高めていく。	教職員	◎: 80	22	58	19	0			
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	● 毎月の安全点検だけでなく、危険箇所を発見した場合は、伊予市教育委員会と連携しながら、迅速な対応を行っている。 ◆ 引き続き、安心・安全な学校づくりに努め、施設改善の要望をしていく。また、清掃、校内掲示の工夫により、よりよい教育環境づくりに努めていく。	教職員	◎: 94	22	72	6	0			
	保護者・地域住民との連携	地域に根ざした学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	B	● コロナ禍のため時期を変更したり、規模を縮小したりしながらも、南伊予の地域の方々のご協力を得て、子どもたちの学びに効果的に関わっていただいた。 ◆ 周囲の感染状況を考慮しつつ、実施可能な方法を考え、地域の人材や教育資源を効果的に活用した教育活動を継続していく。	教職員	○: 78	11	67	22	0		
			学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	● ホームページを中心に、学年だより、学校だより、保健だより等で学校の教育活動の様子を伝えたり、保護者の方への啓発を行ったりした。 ◆ 今後も内容を精査しながら、積極的な情報発信に努める。	教職員	◎: 89	28	61	11	0		
			幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	B	● 感染症拡大防止の観点から、従来の体験的な交流は実施できなかったものが多かった。 ◆ 隣接した立地条件を最大限に生かし、実施可能な方法を考え、引き続き子どもたちの成長を見守りながら、指導・支援に生かしていく。	教職員	△: 50	6	44	44	6		
		業務改善	教職員の負担軽減	勤務時間やワーク・ライフ・バランスを意識した働き方をしている。	C	◆ 教職員自身が自分の働き方を見つめ直し、改善点を探っていく。その際、今までの慣習に縛られることなく、教職員としての職務・使命・責任と業務改善、勤務時間と余暇のバランスを考えていく。	教職員	△: 53	11	42	42	6	
				早く退勤できる環境（職場）になっている。（時間的にゆとりがある。早く帰れる雰囲気がある。）	C	● 超過勤務時間の平均は昨年並みであるが、時期によっては多忙であったため、肯定率が低くなっている。 ◆ 行事の簡素化や会議の効率化を図るとともに、校務分掌を見直し、校務の平準化を進めていく。	教職員	△: 55	11	44	39	6	
				ストレスの少ない働きやすい環境になっている。（精神的なゆとりがある。協働的な職場になっている。）	B	◆ 教職員の心身の健康を保持・増進するために、互いの考えを素直に言い合える雰囲気づくりを行い、教職員間の温かい人間関係づくりに努める。	教職員	○: 64	11	53	36	0	
学校関係者評価委員の所見	○ 天災、人災共に増えている世の中、どう対応すればよいか、なかなかよいアイデアが浮かびません。自然をしっかりと直視し、そこから自らが生きるにはどうすべきかを考える必要があると思います。		学校の対応	○ 様々な想定での訓練を繰り返すことにより、実際に災害が起こったときでも適切に行動できるよう、児童の安全対応能力を高めていきたい。また、E S D教育を進め、持続可能な社会を構築していく中で、自分はどのように生きていけばいいのかしっかりと考えさせていきたい。									
	○ コロナ禍でいろいろな行事が中止や縮小となり、学校へ行くことも少なくなっていますが、学校便り等で学校の様子を知らせてくれており、学校の様子がよく分かります。また、ホームページの伊予小日記や学校便りを楽しみにしています。今後も積極的な情報発信をお願いします。			○ 感染拡大状況を見ながら、可能な形態で授業や行事等の参観機会を確保していきたい。また、引き続き、ホームページや学校便り等で学校の様子を積極的に発信していきたい。									